公益財団法人大倉精神文化研究所

令和7年度事業計画

令和7(2025)年度は、創立者・大倉邦彦が公益財団法人大倉精神文化研究所(以下「当財団」という。)の創立に向けて、具体的に着手した大正14(1925)年から100年目にあたります。「世の為に田を耕す」という理念を掲げた大倉邦彦と当財団の事績を調査及び顕彰することに努めると共に、当財団の「心豊かな国民生活の実現」に貢献するという公益目的を実現すべく、令和7年度事業計画を仕上げています。

計画の柱は、定款で謳っているとおり、①精神文化の研究及びその成果の普及、②地域における歴史・文化の研究及びその成果の普及、③附属図書館の運営及び図書資料の充実・整備であり、この三つの柱に沿って事業を着実に推進し、文化の振興に寄与します。

特に令和7年度では、(1) 大倉邦彦顕彰事業の促進、(2) 貴重コレクションの修復及び保存環境の整備、(3) 貴重コレクションの書誌データ作成及びインターネット公開の促進に重点を置きながら、当財団は、以下の事業計画を着実に実施して参ります。

1 精神文化の研究及びその成果の普及(定款第4条第1項第1号)

(1) 実用の学の研究及びその成果の普及

当財団は、精神文化についての学究的な一面とともに、その学問が現実社会の宗教・教育・政治・経済の実地にふれ、よりよき社会への進展に貢献するという一面も備えています。

実用の学の研究では、このような考えのもと、実業家の実学観や文化事業・教育事業等の調査・研究や資料の収集・公開などを行っています。

明治維新以降、日本は近代化の道を歩み始め、現代社会の宗教・教育・政治・経済の基礎が形作られました。その推進力の一つは、アメリカやヨーロッパ諸国などを見聞し学んだ人びとの海外体験でした。多くの若者たちが、青雲の志を懐いて海を越え、帰国後は政治家・官僚・学者・実業家・教育者など、様々な分野において、現地で得た数々の体験や習得した知識・思想・技術などを、日本社会へ還元していきました。

当財団を創立した大倉邦彦もその一人です。若き日に中国の上海にあった東亜同文書院に進学したことで国際的視野を大きく広げ、また大正末にヨーロッパ諸国を巡って、さまざまな教育施設や図書館を視察しています。こうした世界各地を廻った体験から、大倉は実業家として成功を収めるとともに、当財団の設立に際し、“東西文化の融合”や地理曼荼羅に見られる“個人と日本と世界は三位一体である”といった、理念を生み出すに至りました。

そこで、令和7年度より「近代日本人の海外体験とその影響」をテーマに、幕末から昭和期において、海を渡った日本人が海外で得た経験がその人物の生涯にどう影響を与え、そして日本の発展と社会変革をどう後押ししたかについて考察します。

それらの研究成果は、次に掲げる大倉山講演会で公開するとともに、『大倉山論集』第72輯で特集を組みます(後掲、4頁「1(4)ア 研究紀要『大倉山論集』第72輯の編集・発行」参照)。

【大倉山講演会】

令和7年度は、大倉山講演会を４回、表－1「大倉山講演会」に掲げた日程で開催します。いずれも横浜市大倉山記念館の指定管理者との共催事業として行う予定です。

＜表－1「大倉山講演会」＞

■共催：横浜市大倉山記念館指定管理者　会場：横浜市大倉山記念館ホール

開催日・場所	演　題	講　師
4月12日(土) 第4集会室	大倉家三代-孫兵衛・文二・邦彦-の異文化体験	当財団研究部長 星原　大輔
6月21日(土) 記念館ホール	次世代育成にかける夢	津田塾大学学長 髙橋　裕子
7月12日(土) 記念館ホール	ヴィクトリア朝の岩倉使節団	慶応義塾大学名誉教授 太田　昭子
令和8年3月21日(土) 記念館ホール	岡倉天心と近代日本美術(仮)	(講師未定)

(2)　東西文化融合の研究及びその成果の普及

日本の近代化と西洋文化の受容は、日本人の価値観や思想に大きな変化を及ぼしました。

大倉邦彦は、国民の教育や人格形成において、日本の伝統文化を学ぶことが基本であることを説き、当財団を設立しましたが、その一方で東洋文化の枠組みに囚われることなく、西洋文化の学問成果の良いところも積極的に取り入れることを提唱していました。

そこで令和7年度は、近代化が日本人の信仰や心身の修養などに与えた影響に着目して研究を進めていきます。さらに、大倉邦彦の思想に影響を与えたインドの詩聖タゴールの思想や東亜同文書院の研究も進めます。

【公開講演会】

研究成果の一環として、表－2「公開講演会」で掲げた公開講演会を開催します。

＜表－2「公開講演会」＞

■東亜同文書院の後身である愛知大学との共催による公開講演会等

開催日	演題(仮題)	講師
7月5日(土) 記念館ホール	東亜同文書院の卒業生(仮題)	愛知大学教授(交渉中)

(3)　創立者及び研究所関連資料の研究・調査とその成果の普及

精神文化についての科学的研究及びその普及活動を行ううえで、研究の基礎となる資料を収集・整理・保存することが欠かせません。それを実践することにより、研究及びその普及活動を効率的・効果的に進めていくことができます。このような考え方に立って、創立者である大倉邦彦の思想や事績、当財団の創立から現代に至る沿革等の調査・研究、資料収集等を継続的に実施しています。

令和7年度も、資料のデジタル化作業を進め、所蔵資料のデジタル画像や音声、映像の公開を促進していきます。

ア　研究所沿革史資料の調査・整理

当財団には、創立準備中から今日に及ぶ沿革に係る資料や、書簡や葉書が大量に保存されており、貴重コレクション「研究所沿革史資料」として整理を進めています。これらの整理・登録作業を引き続き実施していきます。

また附属図書館の書庫に残置されている大倉邦彦旧蔵雑誌など、未整理の書籍や雑誌、書類は、調査・整理が済んだ資料から、順次、研究所沿革史資料などに登録していきます〔第二期3年計画1年目〕。

イ 研究所沿革史資料目録のOPAC公開

整理済の「研究所沿革史資料」は約110，000点となり、外部研究者からの問合せや閲覧利用が増えつつあります。そこで平成30年(2018)度より内部目録の再整理を始め、目録データを順次図書館情報管理システム「情報館」用のデータに変換し、OPAC(Online Public Access Catalog＝オンラインで検索可能な蔵書目録)による公開を進めています。

令和7年度は、新たに約500件の目録データを公開します(後掲、7頁「3(2)ア③ 研究所沿革史資料の書誌データ公開」参照)。

ウ インターネット公開に向けた研究所沿革史資料のデジタル化作業

研究所沿革史資料については、資料の現状維持・保存と国内外への情報提供の観点から、デジタルアーカイブの公開を進めています(後掲、4頁「1(4)エ①デジタルアーカイブの充実」参照)。その前提作業として、各資料のデジタル化作業を実施します。

令和7年度は、特に、大倉邦彦が大正15年(1926)から翌年にかけて行ったヨーロッパ視察に係る資料のデジタル化作業を優先して進めます。

エ インターネット公開に向けた音源資料のデジタル化作業

当財団では、大倉邦彦を始めとする当財団関係者の肉声を記録したオープンリールテープや各種カセットテープ、SPレコードなどを所蔵しています。前年度にSPレコードのデジタル化作業はすべて終了しましたので、令和7年度よりカセットテープ類のデジタル化作業に着手します。

オ 研究所沿革史資料の修復及び保存環境の整備

研究所沿革史資料の大部は、他の博物館や図書館等には所蔵されていない、学術上大変貴重な資料です。これらを長く後世に伝え、広く国民の利用に供するため、適切な整理・保存措置を施す必要があります。そこで令和7年度は、経年劣化等が見られる資料の修復と、自筆の書とSPレコードの保存環境の整備を実施します。

カ 第51回研究所資料展「研究所沿革史資料を通してみる横浜市港北区の歩み(仮題)」

研究や調査の成果公開の一環として、平成29年度より毎年8月、大倉山記念館指定管理者との共催でオープンギャラリーを開催しています。令和7年度は、港北図書館その他地域機関との提携事業も視野に入れて、港北区周辺の地図、港北区を舞台とする書籍、東急沿線案内などを紹介する展示を行います。

キ 第52回研究所資料展「大倉邦彦作品展(仮題)」

研究や調査の成果公開の一環として、11月はじめに開催される「第41回大倉山秋の芸術祭」に

て、新たに表装する書を中心に、大倉邦彦本人が作成した作品類の実物展示を行います。

ク 特別資料展「横綱武蔵山と港北区展（仮題）」

港北区出身の第33代横綱武蔵山は神奈川県出身の唯一の横綱であり、現在でも港北区の少年相撲に影響を与え続けています。そこで、4月に横浜アリーナで地方巡業が開催されるに際し、研究や調査の成果公開の一環として、港北図書館と横浜アリーナにて、武蔵山の生涯等を紹介するパネル展示を開催します。

(4) 印刷物の編集及び発行・電子情報の発信

当財団では、東西両洋における精神文化及び地域における歴史・文化の研究はもとより、その研究成果を国民に提供する公益目的事業を推進しています。令和7年度においても、心豊かな国民生活の実現と文化の振興に役立つよう、研究成果等を国民に提供していきます。

ア 研究紀要『大倉山論集』第72輯の編集・発行

当財団の公益目的事業である東西両洋における精神文化及び地域の歴史・文化に関する科学的研究の成果を、『大倉山論集』として広く公表します。当財団の研究員や外部研究者が執筆者となり、歴史、思想、宗教、文学、民俗、風俗等人文科学を中心とした論考を掲載し、令和8年3月に発行します。国立国会図書館、アメリカ議会図書館など国内外の図書館を中心に配布します。

イ 『マンガで学ぶ 大倉邦彦物語』のデジタルブック版の作成・公開

令和3年度に『マンガで学ぶ 大倉邦彦物語』の紙書籍を刊行し、これまで来館者や大倉邦彦の郷里・神埼市内の小学校を中心に配布してきました。今回紙書籍を増刷するにあたり、多くの人たちが手軽に読む機会をより増やすために、デジタルブック版を作成してインターネットで公開します。

ウ 各種リーフレット等の編集・発行

当財団の活動目的や活動内容等の周知を図り、研究成果の公開や普及活動の効果を高めるために、財団の事業案内や大倉山記念館の建物紹介、展示解説等、精神文化普及のための各種リーフレット等の広報用資料を編集・発行します。

令和7年度は、『マンガで学ぶ 大倉邦彦物語』デジタルブック版の普及を目的として、子どもを対象とした大倉邦彦リーフレットを作成します。

エ 電子情報の発信

近年、インターネットを通じた電子情報の公開が進んでおり、特に新型コロナウイルス感染症が拡大した令和2年度以降、電子情報の発信の重要性がさらに増しています。そこで当財団でも所蔵する古い映像資料や音源資料のデジタル化と、インターネットでの公開を進めてきました。令和7年度は、特に以下に掲げる2つの事業を実施します。

① デジタルアーカイブの充実

創立90周年の令和4年度にデジタルアーカイブの環境を整備し、令和6年度からは国立国会図書館をはじめ、全国の公共・大学・専門図書館、公文書館、美術館や学術研究機関など様々な機関が所蔵する資料を統合的に検索できる「国立国会図書館サーチ（NDLサーチ）」並びに「ジャパンサーチ」との連携が始まりました。そこで所蔵資料のデジタル画像や音声、映像について、デジタ

ル化済のものは形式等を整えて、また未着手のものはデジタル化を進めて、順次公開していきます(再掲、3頁「1(3)ウ インターネット公開に向けた研究所沿革史資料のデジタル化作業」参照)。

令和7年度は、昨年度に引き続いて、(1)デジタル化したアナログ音源と所蔵する大倉邦彦の揮毫の一部を、また新たに(2)大正15年のヨーロッパ視察に係るデジタル資料を、インターネットで公開します。

② 『大倉山論集』のPDF(Portable Document Format)による公開

前年度に刊行した『大倉山論集』第71輯を、誰でも閲覧できるように、PDFで公開します。

2 地域における歴史・文化の研究及びその成果の普及(定款第4条第1項第2号)

港北区、横浜市、神奈川県等の行政や、公共図書館、博物館、学校、市民サークル等と幅広く連携し、講演、授業、情報誌等への原稿執筆、館内見学会、地域散策等を行うことにより、地域理解や地域文化の発展に寄与します。

令和7年度も、港北区役所や港北図書館、市民サークル等と積極的に連携を図り、精神文化の普及と地域文化の発展に努めます。

(1) 他機関との連携事業

ア 大倉山記念館指定管理者

大倉山記念館指定管理者と協力して、8月のオープンギャラリー(再掲、3頁「1(3)カ 第51回研究所資料展「研究所沿革史資料を通してみる横浜市港北区の歩み(仮題)」参照)、10月と2月にオープンデイ等を開催します。また、記念館3階の回廊にて、大倉邦彦や記念館に関するパネル展示を常設します。

イ 港北図書館及び港北図書館友の会

港北図書館及び港北図書館友の会等と連携して、講演会や展示会をはじめ、地域文化に関する講演会や展示会等を開催します。

(2) 講師派遣

依頼により各所へ講師を派遣します。

(3) 依頼原稿の執筆

港北区役所発行の情報紙『楽・遊・学』(発行部数3,500)の「シリーズわがまち港北」、ASA大倉山発行『港北STYLE』(発行部数8,500)の「大好き!わがまち」に、原稿を執筆します。その他依頼により原稿を執筆します。

(4) 調査協力

資料所蔵者等からの依頼により、地域資料の調査や整理、聞き取りなどを行います。

(5) 見学案内

行政機関、各種団体・サークル等の依頼や、各種イベントに合わせて横浜市大倉山記念館や周辺地域の見学案内を行います。

(6) 地域資料の収集・整理

当財団が所在する横浜市港北区をはじめとする周辺地域の歴史や文化などを知るためには、図書・雑誌・地図などの印刷資料や写真などの地域資料が不可欠です。しかしこれらの多くは非市販資料で、散逸してしまう可能性が高いため、これら地域資料の収集、整理作業に努めます。

3 附属図書館の運営及び図書資料の充実・整備(定款第4条第1項第3号)

大倉精神文化研究所附属図書館(以下、「当館」という。)は、創立者・大倉邦彦が心豊かな社会の実現と東洋と西洋の精神文化の融合を目指して設立した専門図書館です。一方で、誰でも自由に利用出来る私立の公共図書館としての性格も有しています。

令和７年度も、図書館を広く一般に公開するとともに、図書資料の充実・整備を図り、情報提供機能を強化して、より利便性の高い図書館を目指します。

(1) 附属図書館の運営

当館は、精神文化の専門図書館として、哲学・宗教・歴史などの専門図書から入門書まで約１１０,０００冊の蔵書を有しています。その中でも、神道・儒教・仏教等の資料群や貴重コレクションは、全国的にも学術価値の高い資料です。

当館はそれらの資料を誰でも自由に利用出来る公共図書館としても高く評価されています。令和７年度も、より一層充実した図書館サービスの提供と、利用者にとって快適で安全な環境整備を進めていきます。

ア 附属図書館の公開

当館は、原則として毎週火曜日から土曜日まで週５日一般公開します（開館時間は、午前９時３０分から午後４時３０分まで）。週５日の一般公開に加えて、５月の大倉山こどもフェスティバル、１０月の大倉山記念館オープンデイ、１１月の大倉山秋の芸術祭、１２月の小さな丘のメリークリスマス、２月の大倉山観梅会等地域に根差した催事が行われる時は、臨時に開館します。

イ 資料の収集

当館は、精神文化に関する資料、特に神道・儒教・仏教や歴史の専門的資料に重点を置いて収集しています。さらに、一般利用者にも読みやすい入門書・教養書、小・中学生から一般の方までを対象とした「やさしく読める心の本コーナー」（子ども向け精神文化図書コーナー）の図書、専門機関や大学発行の雑誌資料等も収集します。

収集した資料は外部からでもインターネットで検索できるようＯＰＡＣにより、これを公開します。

ウ 利用者のニーズに応じた図書館サービスの提供

① レファレンスサービスの充実

当館は、全国でも珍しい精神文化の専門図書館として、専門図書の公開に加えて、レファレンスサービスの向上が強く求められています。専門図書館協議会、神奈川県図書館協会、近隣図書館、株式会社ブレインテックなどの団体・図書館等の主催による研修に積極的に参加し、

司書のスキルアップを図るとともに、他機関との情報交換を行い、連携を深めることで、情報提供機能を強化します。

また、研究所の附属機関という当館の強みを活かし、研究員と連携して利用者の多様なニーズに応えるレファレンスサービスの提供を図ります。

②　インターネットの活用

当館の利用者は、全国の研究者と、近隣住民に大別されます。研究者はインターネット検索により専門資料の利用に至ります。一方、近隣住民は直接来館して一般書を利用します。

このような利用者の多様な要望に応えるため、蔵書検索、資料の予約・複写申込、貴重コレクションの閲覧申込、レファレンスサービスといった図書館サービスの提供にインターネットを活用していきます。

また、令和６年度には、「国立国会図書館サーチ(ＮＤＬサーチ)」並びに「ジャパンサーチ」との提携を開始し、当館で所蔵する資料が検索可能になりました。今後も他機関との情報共有を進め、より一層の利便性向上を図ります（前掲、4-5頁「1(4)エ① デジタルアーカイブの充実」参照）。

(2)　専門図書館としての資料管理と機能の充実

精神文化の専門図書館である当館は、一般資料に加えて、２３種類約４０，０００冊に沿革史資料(約１１０，０００点)を加えた２４種類に及ぶ貴重コレクションを所蔵しています。貴重コレクションは、①開館に先立ち大倉邦彦が収集した資料、②大倉邦彦の人脈をもとに受贈又は購入した資料、③研究過程で収集した資料に大別できますが、その大半は他館では所蔵していない貴重な資料です。これらの資料へのアクセス性向上と永続的な利用を可能とするため、書誌データの作成・整備と適切な資料保存環境の整備に努めます。

ア 貴重コレクション書誌データのOPAC公開

貴重コレクションは、平成２５年度から独自に書誌データの作成を進めており、２４種類のコレクションのうち、令和６年度までに、１８コレクションについてはＯＰＡＣ検索を可能にしました。残りのコレクションについても、次のように継続して書誌データの作成を進め、専門図書館としての機能充実を図ります。

①　大倉邦彦旧蔵文庫の整備

当財団創立から９０年を迎えた令和４年４月に、大倉邦彦旧蔵文庫（約３，０００冊）の書誌データのＯＰＡＣ公開をしましたが、一般資料に分類されていた邦彦旧蔵資料や未整理資料の書誌データは、現在も整備中です。令和７年度も継続して整備を進めます。

②　書誌データ整備の継続

令和４年度より開始した岩波茂雄寄贈書の書誌データ整備、令和５年度より開始した松井等旧蔵文庫の書誌データ整備、令和６年度より開始した根本剛蔵寄贈書の書誌データ整備を、令和７年度も継続していきます。また、令和７年度は、令和６年度に寄贈された「旧制高等学校文庫」関連資料の整備を行っていきます。

③　研究所沿革史資料の書誌データ公開

平成３０年度より開始した研究所沿革史資料の書誌データ公開は、令和７年度に約５００件をＯＰＡＣ公開します（再掲、３頁「１（３）イ 研究所沿革史資料目録のＯＰＡＣ公開」参照）。

イ 閉架書庫内資料の簡易データの詳細化

当館では、図書館情報管理システムの導入に際して、より多くの資料のＯＰＡＣ検索を可能にすることを基本方針としたため、多くの資料は書名・著者名の最小限の項目だけ入力した「簡易書誌データ」で運用を開始しました。導入後は、簡易書誌データに出版者・出版地・出版年・件名・キーワード等を追加する詳細化作業を進めています。

令和７年度も閉架書庫内資料に残る簡易書誌データの内、約２，０００件を詳細化して利用者の利便性を高めます。

ウ 資料の保全と活用

当館の資料には、他館で所蔵されていない貴重な資料が数多く含まれています。これらの資料を健全な状態で保存し、後世に伝えていくことは当館の重要な使命の一つです。

令和７年度も資料の適切な保存環境の整備を行うとともに、貴重コレクションを中心に資料のデジタル化とインターネットによる公開を進め、資料の保全と活用の両立を図っていきます。

①　書庫内環境の整備

築年数の古い当館の書庫は、外気を遮断できる構造ではないため、書庫内のサーキュレーター稼働や、防虫のための粘着マット使用、ホコリ・カビの除去作業等により、資料の保全に適した書庫内環境の整備を年間を通して行います。

②　資料保存箱の作成

当館では、貴重資料を中性紙の保存箱・封筒に入れる作業等を進めています。平成２８年度からはボランティアの協力を得て、各資料のサイズに合わせた中性紙の保存箱を作成してきました。令和７年度も継続して実施します。

また、令和６年度に引き続き、保存箱作成と配架作業を専門業者にも委託し、より多くの貴重資料の保全を図ります。

③　貴重コレクションのデジタル化と公開

貴重コレクションは、資料保存の観点からコピー（電子式複写）を禁止しており、複写依頼のあった資料については司書がデジタル撮影を行っています。書誌情報のＯＰＡＣ公開を進めたことで、外部からの蔵書検索が増加して資料の存在が認知され、大学・研究機関・個人研究者からの複写依頼も増えています。今後も依頼された資料のデジタル撮影を進め、利用者の便宜を図るとともに、撮影データをデジタルアーカイブとして順次公開していきます（再掲、4-5頁「１（４）エ① デジタルアーカイブの充実」参照）。

④　遠山金四郎「役宅日記」のデジタルアーカイブ化に向けた修復

金澤甚衛旧蔵資料の遠山金四郎「役宅日記」は、学術的価値と注目度が非常に高い資料であり、デジタルアーカイブとしての公開が切望されています。しかし、虫損などによる損傷が激しく、原資料の保存と活用の観点から修復が急務です。そこで令和７年度は、専門家の意見聴取や他館の事例調査を行い、デジタル化を視野に入れた修復業者の選定を行います。

(3) 利用促進のための広報活動

精神文化の専門図書館であり、かつ市民利用施設内の公共図書館でもある当館を広く周知し、新規利用者を開拓するため、広報活動を行います。

ア 附属図書館利用案内リーフレットの発行

当館では、利用方法や所蔵資料の概要をまとめた利用案内リーフレットを作成し、催事や見学会で配布して広報を行っています。

令和７年度は、資料整理やＯＰＡＣ公開の成果等最新の情報を反映したリーフレットの改訂版を発行し、来館者等に配布します。

イ ホームページでの情報発信

ホームページで、定期的な新着図書の紹介・催し物の案内、利用に関するお知らせ、テーマ別のブックリスト、おすすめ本等の情報を随時発信します。

ウ 所蔵資料の紹介展示

閲覧室の小スペースや展示ケースを利用して、〈表－３〉で掲げた内容で所蔵資料を紹介する資料展を行い、閲覧利用や貸出につなげます。

① 図書館資料展

図書館資料展は、他館で所蔵がなく、普段見てもらう機会の少ない貴重コレクションを中心に紹介する展示です。令和７年度は、春にタゴール月間記念展示、夏に小・中学生を対象とした資料展示を実施する他、豊かな心を育むことをテーマとする資料展示を行います。

② 図書館ミニ展示

図書館ミニ展示では、当財団で開催している講演会、大倉山秋の芸術祭での図書館企画ワークショップ等に合わせ、各イベントの広報や内容理解を深めることを目的として、貸出可能な資料を中心に紹介します。時節等に沿ったテーマ展示も行います（1-5頁「1 精神文化の研究及びその成果の普及」参照）。

＜表-３「所蔵資料の紹介展示」＞

種別	内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
図書館資料展	タゴール月間記念展示		○										
	子ども関連資料展示					○							
	大倉邦彦関連資料展示								○				
	その他テーマ展示											○	
図書館ミニ展示	大倉山講演会	○		○	○								○
	愛知大学共催講演会				○								
	図書館ワークショップ							○					
	小さな丘のメリークリスマス									○			
	時節に沿ったテーマ展示		○			○					○		

エ 大倉山秋の芸術祭

大倉山秋の芸術祭は、多くの市民が訪れることから、当館を広く知ってもらう機会と考え、開催期間中の日曜日・祝日は臨時に開館します（再掲、6頁「3(1)ア 附属図書館の公開」参照）。

令和７年度は、感謝と喜びを伝えるコミュニケーションツールである「笑い文字（満面の笑顔を渡す筆文字）」を学ぶワークショップを開催し、関連資料の展示も行います（再掲、9頁「3(3)ウ 所蔵資料の紹介展示」参照）。

また、除籍本等による「リユース文庫」も設置して、市民の読書活動の推進と資料の有効活用を図ります。

オ 記念しおりの作成

令和１４(２０３２)年度の創立１００周年に向けて、『日本精神文化曼荼羅』とそこに描かれている先哲を紹介するしおりを作成します。令和６年度から１４年度までに合計１２種類を作成し、大倉山秋の芸術祭等で配布し、当館及びその設立趣旨の周知と読書意欲の向上による利用促進を図ります。

令和７年度は、第２弾として「最澄」のしおりを作成します。

カ 図書館総合展

毎年開催される図書館総合展は、専門業者から図書館に関心を持つ一般の方まで、全国から多くの来場者が訪れます。当館は毎年参加するとともに、令和６年度は図書館見学会を実施しました。令和７年度も継続して参加し、当館の周知と新規利用者の開拓を図ります。また、展示会会場に足を運び、他館や専門業者等との交流・情報入手の機会とし、図書館サービスの向上に役立てます。

キ 外部機関との連携

港北区役所や港北図書館、姉妹図書館提携を結んでいる佐賀県神埼市立図書館、その他関係機関等と連携して、読書活動推進や広報活動に取り組みます。